

2005年12月

「NHK新生プランに関する世論調査」報告書

調査の概要	2
結果の要約	3
結果の概要	
1 新生プランの認知	
(1) 認知とその程度	4
(2) 情報源	5
(3) 認知の中身	6
(4) 関連した行動	7
(5) 評価	8
2 新生プランの内容についての意見	
(1) 力を入れるべきこと	9
(2) スリム化の賛否	10
(3) 受信料の公平負担への態度	12
1) 受信料額の見直し	12
2) 優遇施策	13
3) 支払い督促の賛否	14
単純集計結果	16

調査の概要

1 調査目的

NHK新生プランに対する人々の意向を把握する。

2 調査時期

2005年11月10日(木)～13日(日)

3 調査相手

全国の20歳以上の国民 2,000人(住民基本台帳から層化無作為2段抽出)

4 調査方法

個人面接法

5 調査有効数(有効率)

1,313人(65.7%)

6 サンプル構成

全 体	性		年 層					
	男	女	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,313人	600	713	147	223	221	265	253	204
100.0%	45.7	54.3	11.2	17.0	16.8	20.2	19.3	15.5

男の年層						女の年層					
20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
70	95	90	102	130	113	77	128	131	163	123	91
5.3	7.2	6.9	7.8	9.9	8.6	5.9	9.7	10.0	12.4	9.4	6.9

職 業							
農林 漁業	商工・ サービス業	事務職	労務職	自由業・ 管理職	無職の 主婦	学生	その他・ 無職
36	147	226	273	31	355	22	223
2.7	11.2	17.2	20.8	2.4	27.0	1.7	17.0

* 報告書では、結果の数値はすべて、全体を分母としたものを掲載している。

* また、結果の数値は小数第一位を四捨五入して整数で表示している。

このため、図表中の回答の合計が100%にならないことがある。

結果の要約

新生プランが発表されたことを知っている、という人は、29%であった。

この人たちに対して、情報源、認知している内容やプランに対する評価などを尋ねた結果は以下のとおり。（数値は、プランを知らない人も含めた全員を分母としたもの）

新生プランについての情報は、「NHKのニュース・番組」（22%）から得ている人が最も多く、次いで「新聞」（14%）、「民放のニュース・番組」（9%）の順である。

新生プランの内容の中で、知っている人が比較的多いのは、「視聴者第一主義に立った開かれた番組づくり」（13%）、「NHKだからできる放送の充実」（12%）、「支払い督促の検討」（12%）である。

「新生プラン」に関連して情報発信などの行動をしたかどうかについては、「特に何もしなかった」という人が大半である。

新生プランに対する評価は、「大いに」と「まあ」を合わせて「評価する」が13%、「あまり」と「まったく」を合わせて「評価しない」が12%と二分されている。

新生プランを知っているかどうかに関わらず全員に、盛り込まれている事柄に対する意見を尋ねた結果は以下のとおり。

力を入れるべきこととして半数以上の人あげたのは、「迅速で的確な災害報道・緊急報道」、「視聴者の声を反映させた番組づくりや番組編成」である。

スリムで活力ある組織作りのために盛り込まれた項目について、実施すべきかどうかを尋ねた結果では、「組織の統廃合」「関連団体の再編成」「職員の削減」「外部プロダクションとの競争の導入」は、どちらかといえばを含めて「実施すべき」という人が半数以上で、「実施すべきでない」という人を上回っている。「放送時間の短縮」については、時間帯などを特に明示せずに尋ねたが、「すべきでない」という人が半数で、「すべき」を上回っている。

受信料額の見直し策として検討すべきだと思う人が最も多いのは、「一人暮らしの学生の料金割引」（45%）であるが、ついで多いのは、「掲げられた項目の中にはない」（36%）という回答である。

優遇施策として実施したらよいと思うことを1つでもあげた人は54%である。項目では、「イベントへの招待」（26%）、「公開番組の観覧の優先的な抽選」（24%）が多い。「優遇施策は必要ない」という人は35%である。

受信料支払い督促検討の賛否については、どちらかといえばを含めて、「実施すべき」41%、「実施すべきでない」44%で、意見が二つに割れている。

結果の概要

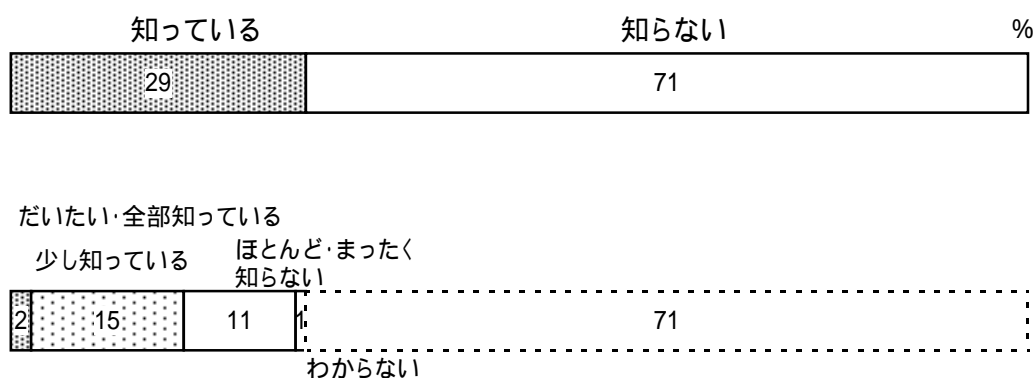
1. 新生プランの認知

(1) 認知とその程度

「新生プラン」が発表されたことを知っているかどうかを尋ねたところ、「知っている」という人は29%で、知らないという人(71%)のほうが多かった。

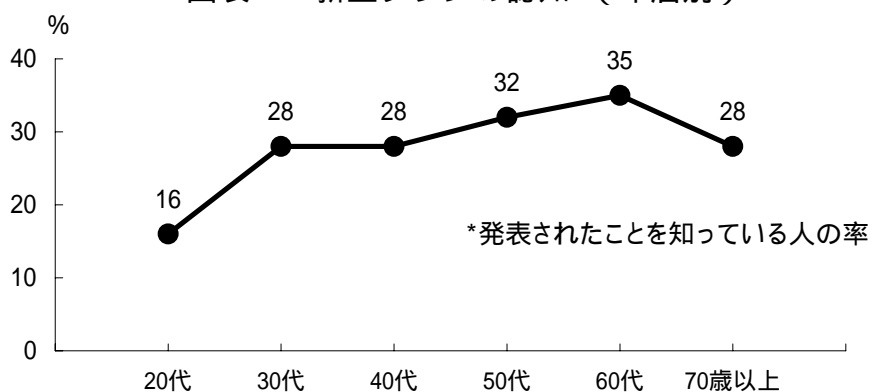
また、発表されたことを知っているという人(29%)に、内容をどの程度知っているかを尋ねたところ、ほぼ半数にあたる15%が「少し知っている」、4割弱にあたる11%が「ほとんど・まったく知らない」という回答であった。「だいたい・全部知っている」という人は2%であった。

図表1 新生プランの認知とその程度



年層別にみると、「知っている」という人は60代で多く、20代では少ない。このほかの年層はいずれも30%前後である。

図表2 新生プランの認知* (年層別)

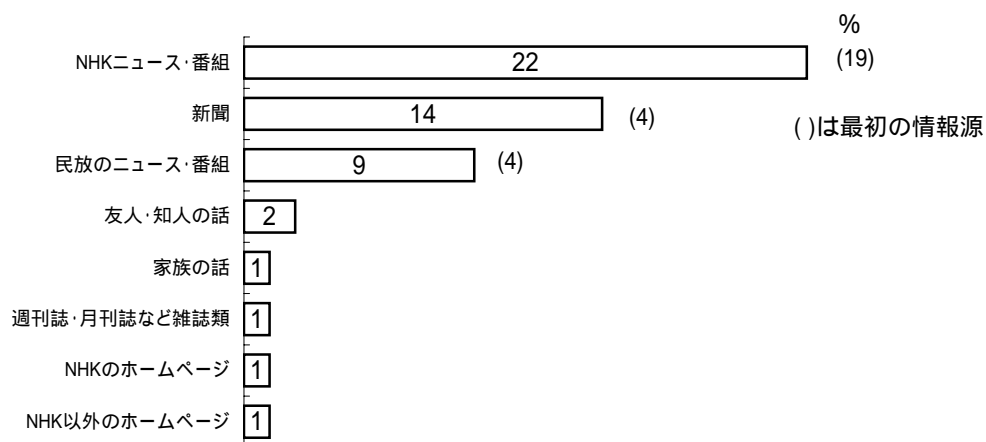


(2) 情報源

「新生プラン」について知っているという人(29%)に、どこから情報を得たかを尋ねたところ、知っている人の8割弱にあたる22%が「NHKのニュース・番組」をあげた。次いで「新聞」14%、「民放のニュース・番組」9%、という結果であった。これら以外の「友人・知人の話」「家族の話」「週刊誌・月刊誌などの雑誌類」は1~2%と少ない。

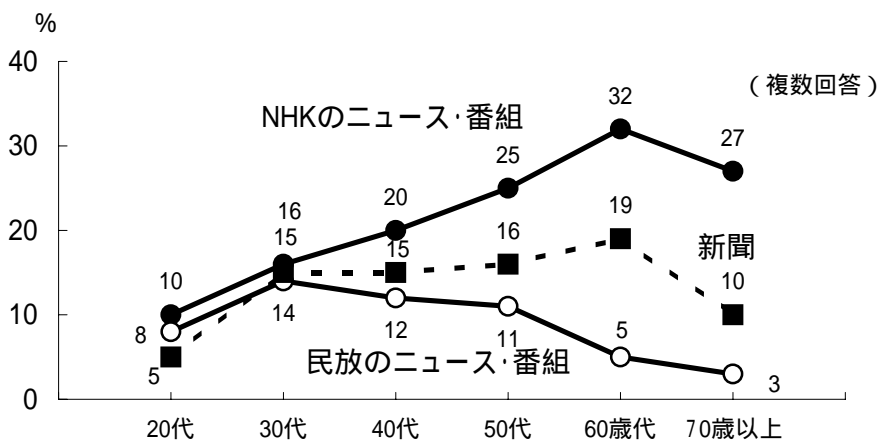
また、最初の情報源をみても、「NHKのニュース・番組」が19%と最も多い。「新聞」はその後の情報源として利用されたようである。

図表3 新生プランについての情報源 (複数回答)



「NHKのニュース・番組」「新聞」「民放のニュース・番組」を年層別にみると、40代以上では「NHKのニュース・番組」が最も多いが、30代以下では3つのメディアが拮抗している。

図表4 新生プランについての情報源(年層別)

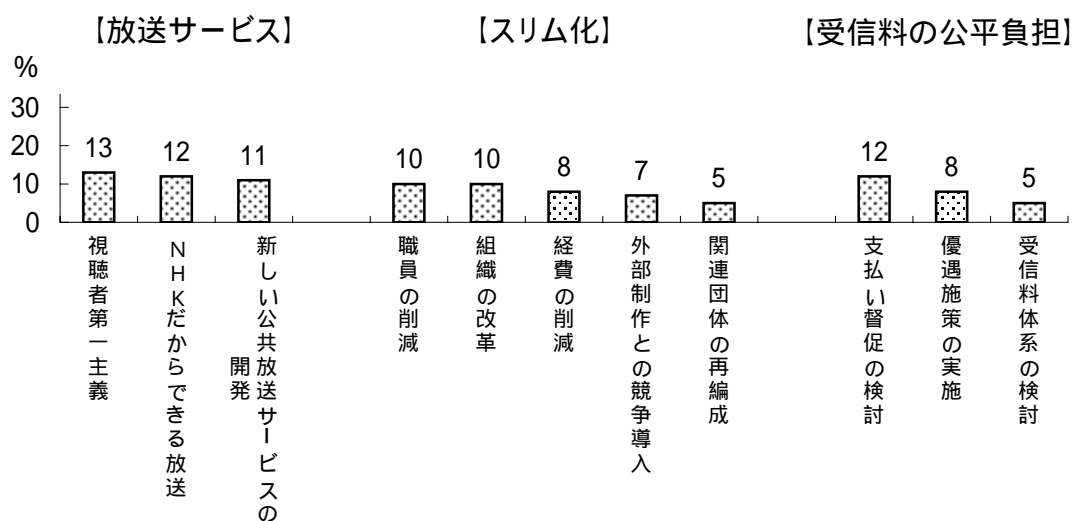


(3) 認知の本身

「新生プラン」について知っているという人に、盛り込まれた内容（項目）を示し、見聞きしたことがあるものをいくつかあげてもらった。

知っている人（29%）の半数以上が知っている項目はなかったが、中では「視聴者第一主義に立った番組づくり」（13%）、「NHKだからできる放送の充実」（12%）、「支払い督促の検討」（12%）が比較的良好に知られていた。

図表5 新生プランについて知っている内容（複数回答）



【選択肢全文】

- 視聴者第一主義：視聴者第一主義に立った開かれた番組づくりに取り組む
- NHKだからできる放送：NHKだからできる放送をさらに充実する
- 新しい公共放送サービスの開発：放送のデジタル化を進め、視聴者にとって利便性の高い新しい公共放送サービスを開発する
-
- 職員の削減：放送の質を確保しながらも、平成18年度から3年間で全職員の10%、1,200人を削減する
- 組織の改革：部や局の統廃合、管理部門の縮小など、組織の改革を推進する
- 経費の削減：放送設備の整備計画や、教育テレビ、衛星ハイビジョンの24時間終夜放送などを見直し、経費の削減を図る
- 外部制作との競争導入：NHKの制作者と外部の制作者が番組の企画、制作を競い合う仕組みを本格的に導入するなどにより、組織の活性化を促す
- 関連団体の再編成：関連団体について、NHKと一体となった諸改革を進め、時代にふさわしい再編成を行う
-
- 支払い督促の検討：訪問や文書などでの丁寧な説明により、お願いを重ねても受信料を支払わない場合には、民事手続きによる支払い督促の活用などを検討する
- 優遇施策の実施：口座振替の人、長期間支払っている人に対する優遇施策を実施する
- 受信料体系の検討：単身赴任者や学生の料金割引制度など、より公平で合理的な受信料体系を検討する

(4) 関連した行動

「新生プラン」を知っているという人に、関連して情報発信などの行動をしたかどうか尋ねた。知っている人(29%)の8割以上にあたる24%は、「特に何もしなかった」と答えている。中で多いのは「家族や友人・知人に話をした」の4%で、「NHKに電話・FAX・メールをした」という人は1%に満たず、少なかった。

図表6 新生プランに関連して行った行動 (複数回答)

家族や友人・知人に話をした	4 %
NHKのホームページを見た	1
NHKに電話・FAX・メールをした	(0.2)
インターネットに書き込みをした	0
その他	0

特に何もしなかった	24
わからない	1
無回答	(0.1)
非該当(「新生プランを知らない、無回答」)	71

なお、参考までに、「NHK新生プラン」に関連したことに限らず、放送局への一般的なアクセス経験について尋ねた質問でも、国民全体の82%の人が「したことはない」と答えている。意見、要望を放送局へ伝えたことのある人は、「電話」で3%、「手紙・FAX・メール」で2%となっている。

図表7 放送局へのアクセス経験 (複数回答)

公開番組の観覧を応募する	9 %
番組で募集しているお便りや質問の手紙・FAX・メールを送る	4
意見、要望などの電話をする	3
意見、要望などの手紙・FAX・メールを送る	2
放送番組の出演を応募する	2
番組で募集しているビデオやテープ、写真を投稿する	1
その他	1

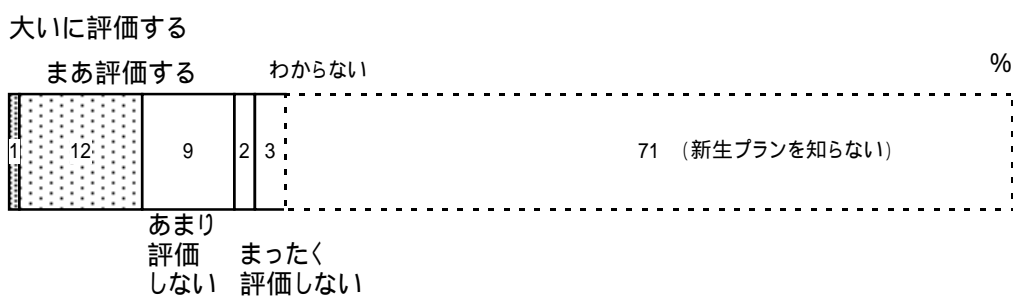
したことはない	82
わからない	1
無回答	(0.2)

(5) 評価

「新生プラン」を知っているという人(29%)に、どの程度評価するかを尋ねた。

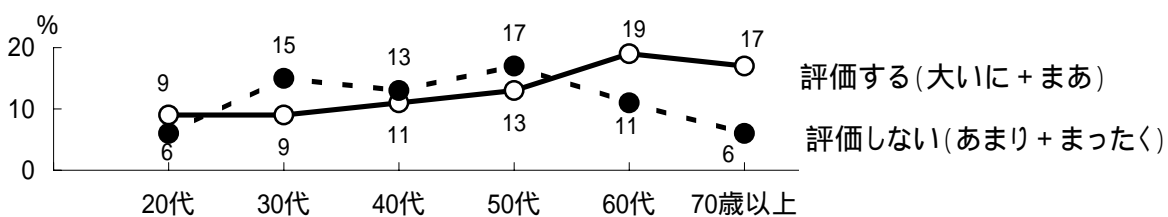
「大いに」と「まあ」を合わせて評価するという人は13%、「あまり」と「まったく」を合わせて評価しないという人は12%で、評価は2分されている。

図表8 新生プランに対する評価



評価を年層別にみると、50代以下では「評価する」、「評価しない」が同程度であるが、60代以上では、「評価する」という人が「評価しない」という人を上回っている。

図表9 新生プランに対する評価 (年層別)



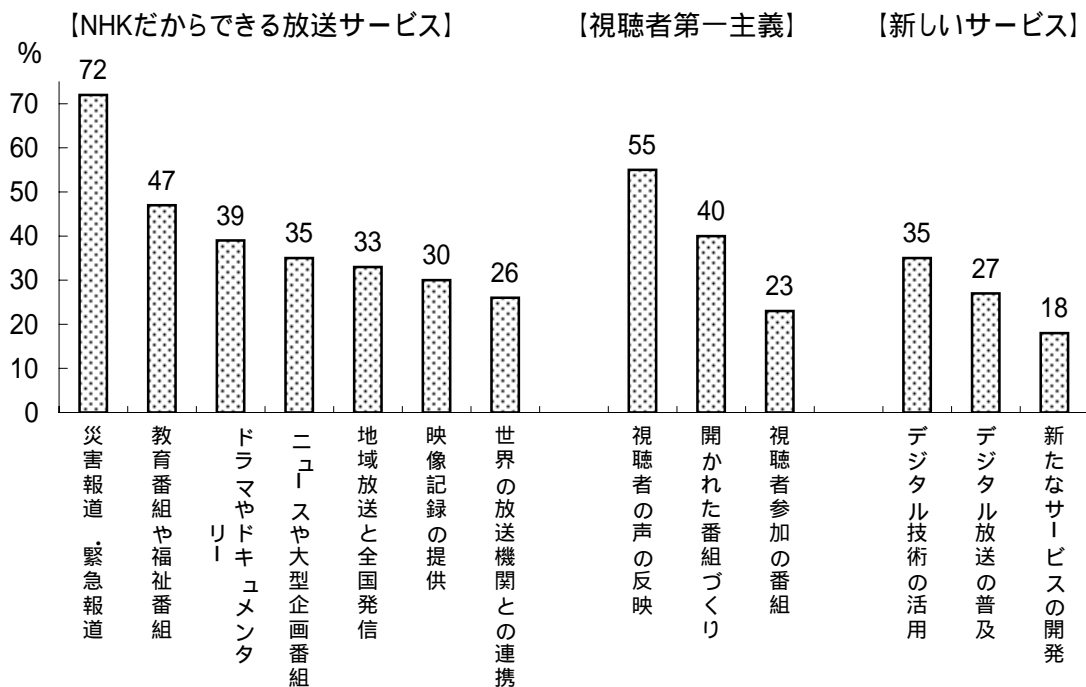
2. 新生プランの内容についての意見

「新生プラン」を知っているか否かに関わらず全員に、プランに盛り込まれている事柄を示して、意見を尋ねた。

(1) 力を入れるべきこと

NHKが今後さらに力を入れるべきだと思うことをいくつかもあげてもらった。最も多いのは「NHKだからできる放送サービス」の中の「迅速で的確な災害報道・緊急報道」72%で、次いで「視聴者第一主義」の「視聴者の声を反映させた番組づくりや番組編成」であった。

図表10 力を入れるべきこと (複数回答)



【選択肢全文】

災害報道・緊急報道：いざというとき頼りになる、迅速で的確な災害報道・緊急報道をすること
教育番組や福祉番組：子どもたちを健やかにはぐくむ教育番組や、高齢者や障害者のくらしに役立つ福祉番組をつくること
ドラマやドキュメンタリー：心に響くドラマ、深く時代をみつめるドキュメンタリーなど、次の時代に引き継ぐ質の高い番組をつくること
ニュースや大型企画番組：情報をはらんする中で、確かな指針となるニュースや大型企画番組をつくること
地域放送と全国発信：地域に密着し、地域社会の発展に貢献する地域放送と全国発信を行なうこと
映像記録の提供：国民的財産である貴重な映像記録の蓄積を生かす番組、サービスを提供すること
世界の放送機関との連携：世界の放送機関と協力・連携するとともに、日本の最新の動きと文化を世界に発信すること
視聴者の声を反映：視聴者の声を受け止め、それを反映させた番組づくりや番組編成をすること
開かれた番組づくり：外部の人材などの新しい発想や多様な視点を取り入れた、開かれた番組づくりをすること
視聴者参加の番組：視聴者が議論に参加し解決策を考えていく番組をつくること
デジタル技術の活用：デジタル技術を活用し、誰もが等しく情報を得られる”人にやさしい”放送に取り組むこと
デジタル放送の普及：地上デジタル放送、BSデジタル放送を普及させること
新たなサービスの開発：携帯電話でテレビを見たり、デジタル録画機に記録した番組を好きな時間に選んで見るなど、新たなサービスを開発すること

(2) スリム化の賛否

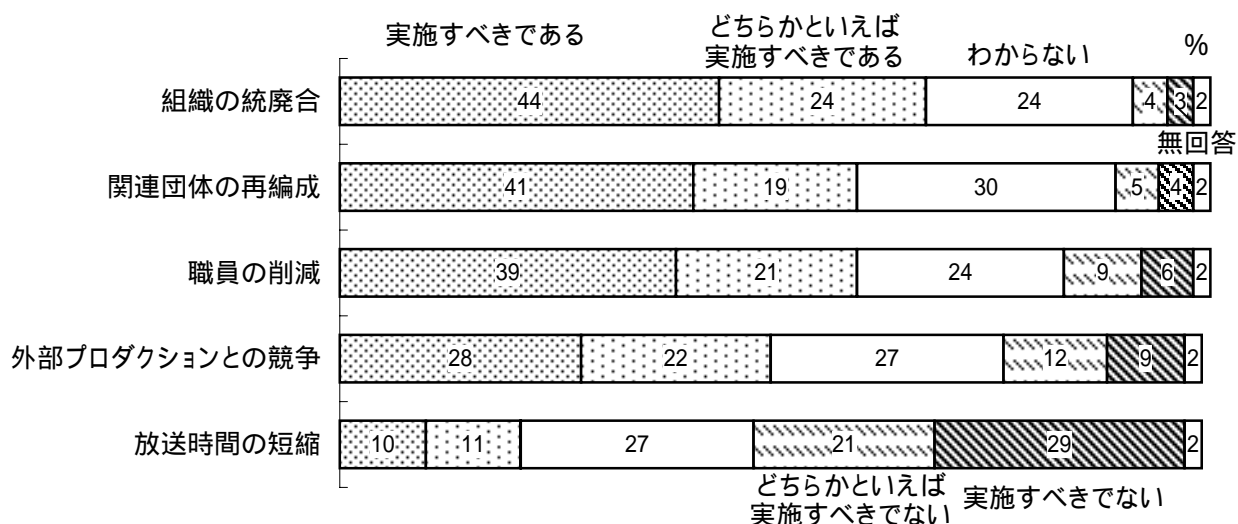
スリムで活力ある組織作りのために盛り込まれた項目について、それぞれ実施すべきかどうかを尋ねた。

まず、どの項目についても「わからない」という人が20%以上と多いのが特徴である。その上で、「すべき・すべきでない」の関係をみると、「組織の統廃合」「関連団体の再編成」「職員の削減」「外部プロダクションとの競争の導入」は、（どちらかといえはを合わせて）「すべき」が半数以上で、「すべきでない」を上回っている。

「放送時間の短縮」については、時間帯などを特に明示せずに尋ねたが、

「すべきでない」が半数で、「すべき」を上回っている。

図表 1 1 スリム化への賛否



【項目全文】

組織の統廃合：組織を統廃合したり、管理部門を縮小する

関連団体の再編成：NHKの関連団体を再編成する

職員の削減：職員の10%（1,200人）を3年間で削減する

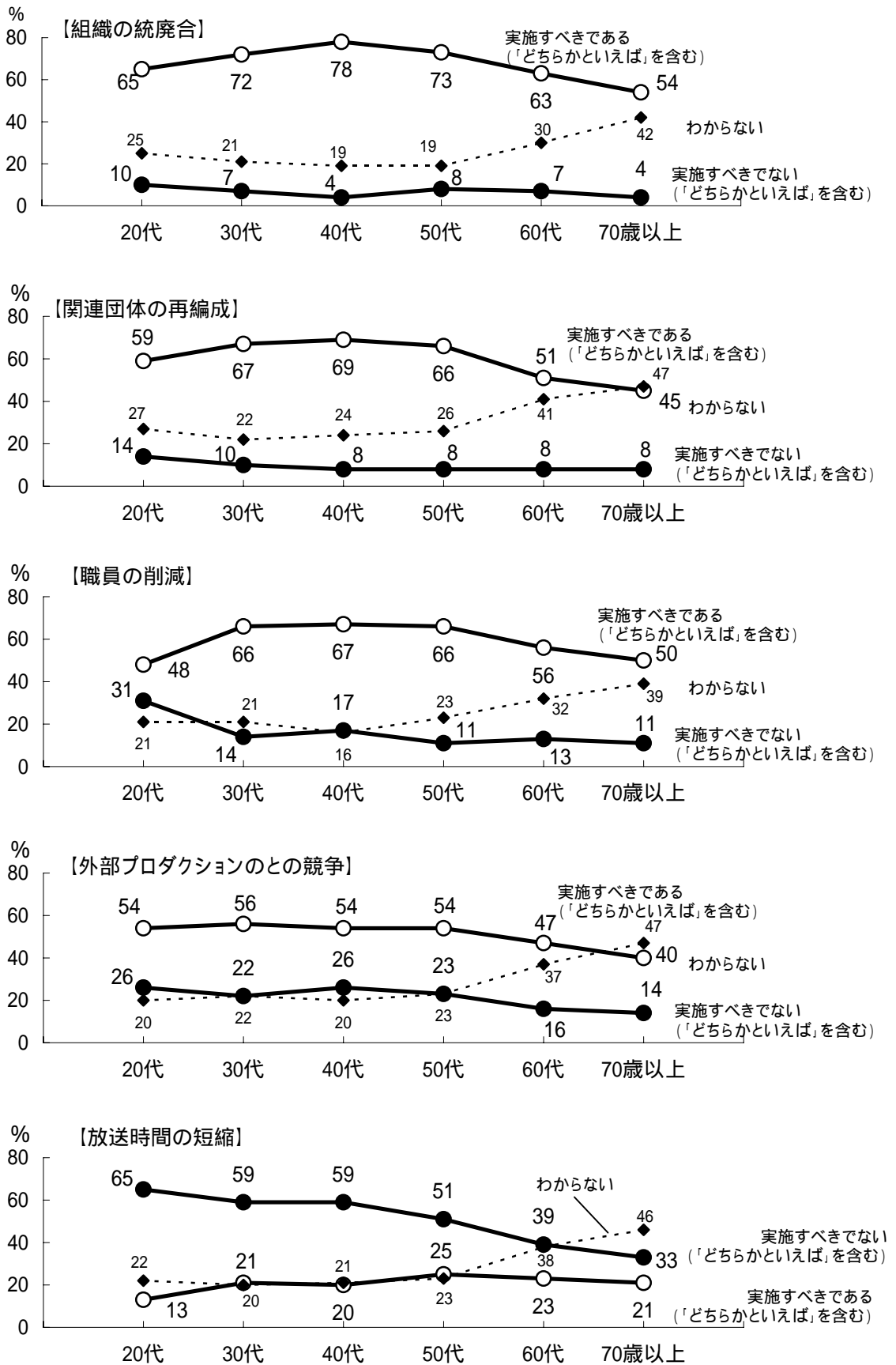
外部プロダクションとの競争：NHKと外部プロダクションが番組制作で競い合う仕組みを増やす

放送時間の短縮：教育テレビ、衛星ハイビジョンの放送時間を短縮する

これらの結果を年層別にみると、いずれの項目も「わからない」という人が、ほとんどすべての年層で20%を超えて多いが、とりわけ60歳以上で多い。

「すべき」と「すべきでない」の関係は、どの項目のどの年層も国民全体と同様の傾向を示している。（図表は次ページ）

図表12 スリム化の賛否

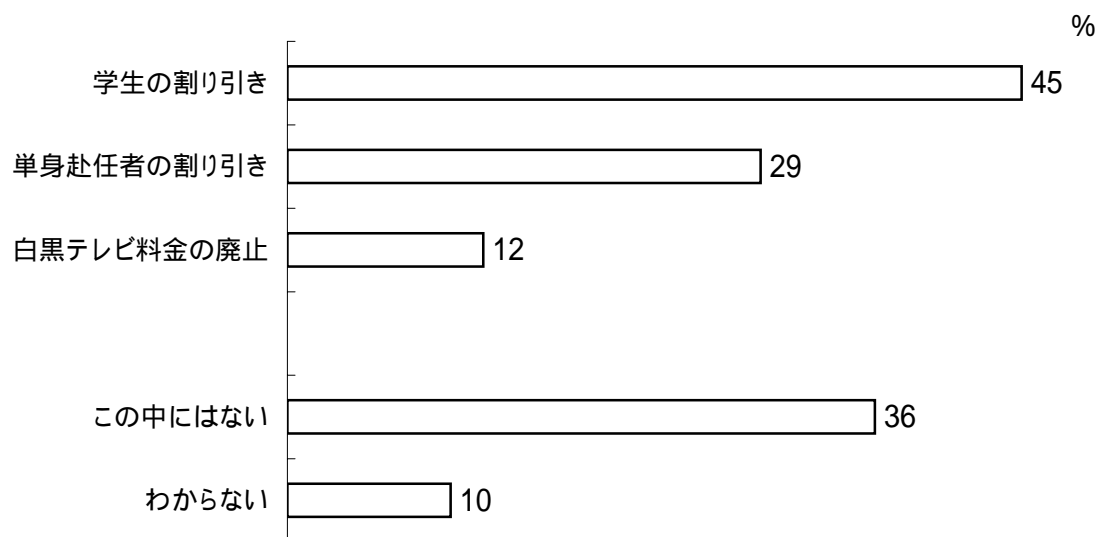


(3) 受信料の公平負担への態度

1) 受信料額の見直し

受信料の金額の見直し策として検討すべきだと思うことをいくつでも選んでもらった。多い順に「学生の割引」「単身赴任者の割引」「白黒テレビ料金の廃止」であったが、「この中にはない」という人も多く、選択肢にかかげたこと以外の内容を考えている人も多いと思われる。

図表 1 3 受信料額の見直し<検討すべきこと> (複数回答)



【選択肢全文】

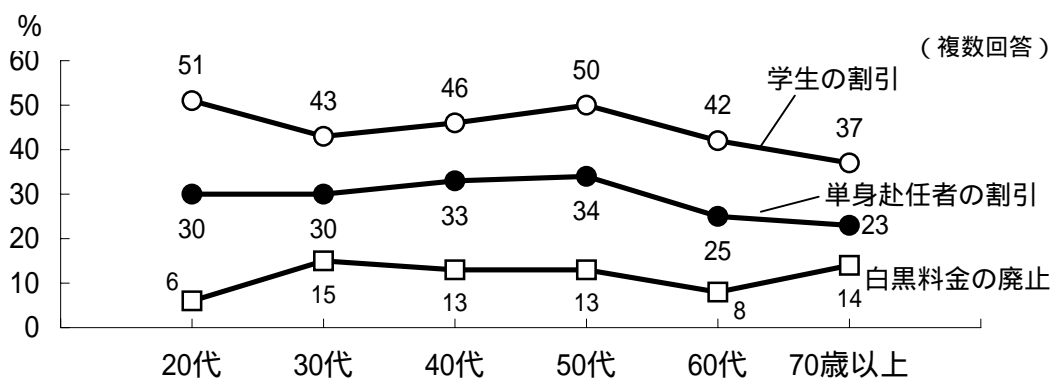
学生の割引：1人暮らしの学生の受信料額を割り引く

単身赴任者の割引：単身赴任者の受信料額を割り引く

白黒テレビ料金の廃止：白黒テレビの受信料を、カラーテレビと同額にする

これらの結果を年層別にみると、70歳以上では「わからない」という人が多い分、割引を選ぶ人が少ない。これ以外の層では、年層による大きな違いはみられない。

図表 1 4 受信料額の見直し<検討すべきこと> (年層別)

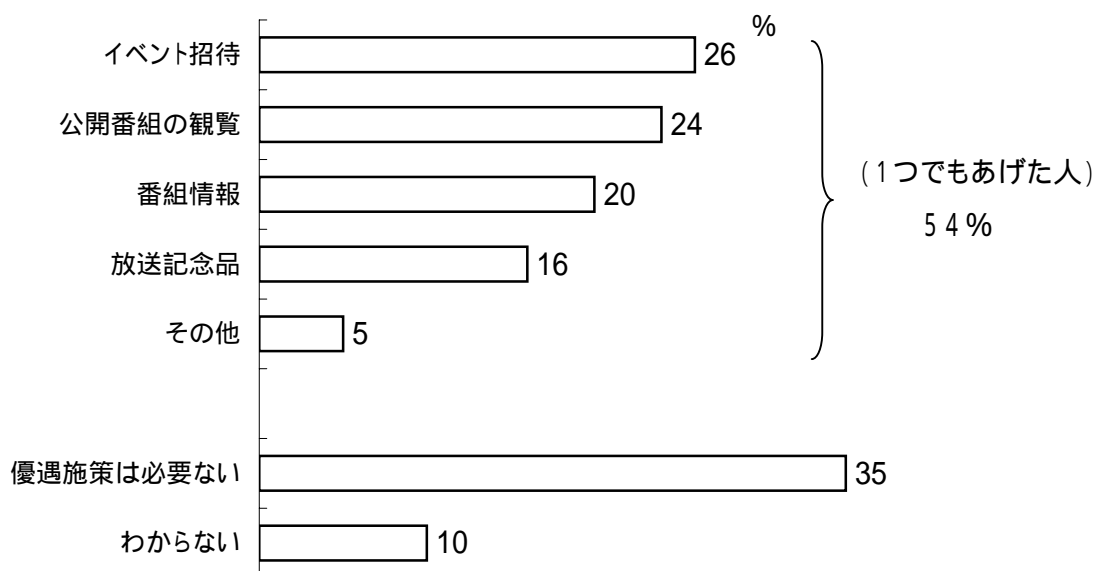


2) 優遇施策

優遇施策として実施したらよいと思うことをいくつでも選んでもらった。1つでもあげた人は54%であった。施策では「イベント招待」と「公開番組の観覧」が同程度で最も多く、以下、「番組情報の提供」、「放送記念品の提供」の順で続いている。

「優遇施策は必要ない」という人は35%であった。

図表 1 5 優遇施策<実施したらよいと思うこと> (複数回答)



【選択肢全文】

イベント招待：NHK主催の美術展などのイベントに招待する

番組情報：番組やイベントの情報を送る

公開番組の観覧：公開番組の観覧抽選を優先的に行う

放送記念品：番組関連の放送記念品を提供する

年層別にみると、「優遇施策は必要ない」という人は、全体に比べ、60代で多く20代で少なくなっている。

全体に比べて多いものを見てみると、50代の「イベント招待」、30・40代の「番組情報」があげられるが、際立った特徴は見出せない。

図表 1 6 優遇施策<実施したらよいと思うこと> (年層別)

(複数回答) (%)

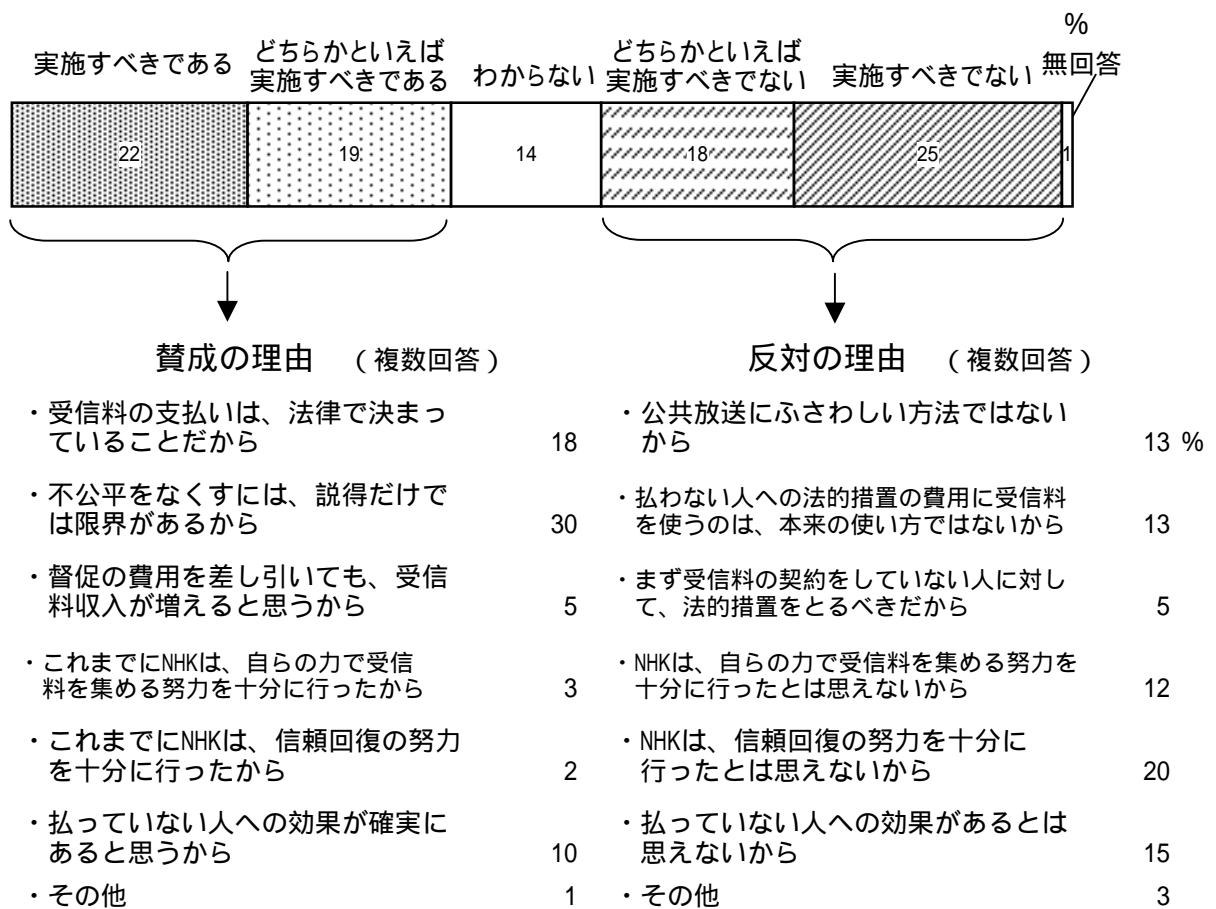
	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
イベント招待	26	30	26	28	31	22	<i>18</i>
公開番組の観覧	24	27	25	28	25	21	20
番組情報	20	21	26	26	23	15	<i>11</i>
放送記念品	16	20	18	15	15	15	<i>10</i>
必要ない	35	<i>27</i>	31	32	35	42	40

太字：全体より多い、斜字：全体より少ない

3) 支払い督促の賛否

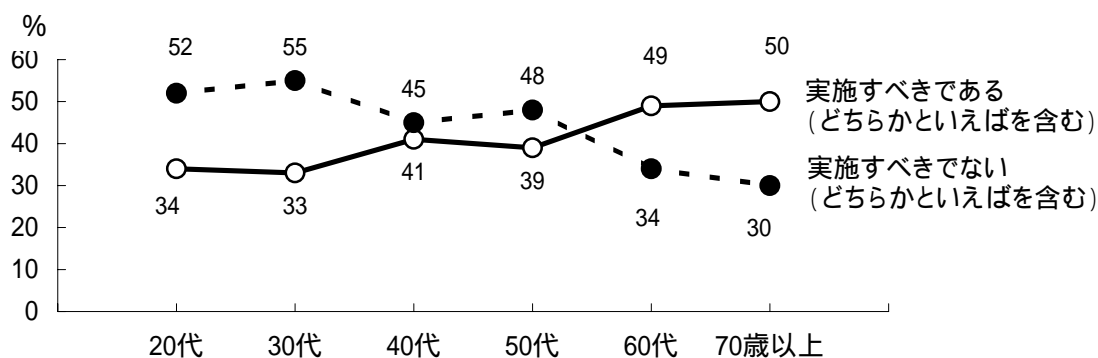
支払い督促の検討の賛否を尋ねた結果は下図のとおりで、「実施すべき」22%、「実施すべきでない」25%と、賛否が分かれた。「どちらかといえば」を合わせても、「実施すべき」41%、「実施すべきでない」44%で、賛否が二分された。すべきという人の理由で最も多いのは、「不公平をなくすには説得だけでは限界がある」30%（全体を分母とした値）、「すべきでない」という人の理由で最も多いのは、「NHKは、信頼回復の努力を十分に行ったとは思えないから」20%（同）であった。

図表17 支払い督促の賛否



どちらかといえばを含めて賛否を年層別にみると、20・30代では「すべきでない」が「すべき」を上回り、60歳以上では逆に「すべき」が「すべきでない」を上回っている。40・50代では、両者が拮抗している。

図表18 支払い督促の賛否（年層別）



支払い督促への賛否を、自己申告による「自宅での受信料支払いの有無」別にみた。「受信料支払いあり」の人（全体の81%）では、どちらかといえばを含めて「実施すべき」（49%）が「実施すべきでない」（37%）を上回り、「受信料支払いなし」の人では、逆に、「実施すべきでない」（78%）が「実施すべき」（11%）を上回っている。

図表19 支払い督促の賛否（受信料支払い有無別）

	全体	受信料支払い (%)	
		「あり」 (81%)	「なし」 (16%)
実施すべき（どちらかといえばを含む）	41	49	11
実施すべきでない（どちらかといえばを含む）	44	37	78
わからない	14	14	10
無回答	1	1	2

自己申告による「自宅での受信料支払いの有無」

单纯集計結果

「NHK新生プランに関する世論調査」 単純集計結果

1. 調査目的
NHK新生プランに対する人々の意向を把握する。
2. 調査時期
2005年11月10日(木)～13日(日)
3. 調査方法
個人面接法
4. 調査対象
全国の20歳以上の国民
5. 調査相手
住民基本台帳から層化無作為2段抽出
2,000人
6. 調査有効数(率)
1,313人(65.7%)

7. 家族の話 1.0
8. 友人・知人の話 1.4
9. その他 0.2
10. このほかにはない 12.3
11. わからない 0.5
12. 無回答 0.0
13. 非該当(新生プランを知らない+無回答) 71.3

- 認知の程度 -

SQ3. あなたは「NHK新生プラン」の内容をどれくらいご存知ですか。この中からあてはまるものを1つだけお答えください。

1. だいたい・全部知っている 2.4 %
2. 少し知っている 14.9
3. ほとんど・まったく知らない 10.7
4. わからない 0.7
5. 無回答 0.0
6. 非該当(新生プランを知らない+無回答) 71.3

- 認知 -

第1問 「NHK新生プラン」という、NHKの経営改革方針が9月20日に発表されました。あなたは、「NHK新生プラン」が発表されたことを知っていますか、それとも知りませんでしたか。

1. 知っている 28.7 %
2. 知らない 71.1
3. 無回答 0.2

- 最初の情報源 -

【SQ1～SQ8は、Q1で「1. 知っている」と答えた人に】
SQ1. あなたは「NHK新生プラン」のことを最初に何から知りましたか。この中からあてはまるものを1つだけお答えください。

1. NHKのニュース・番組 18.8 %
2. 民放のニュース・番組 4.3
3. 新聞 4.4
4. 週刊誌・月刊誌などの雑誌類 0.1
5. NHKのホームページ 0.1
6. NHK以外のホームページ 0.4
7. 家族の話 0.0
8. 友人・知人の話 0.2
9. その他 0.3
10. わからない 0.1
11. 無回答 0.0
12. 非該当(新生プランを知らない+無回答) 71.3

- その他の情報源(MA) -

SQ2. このほか、あなたが「NHK新生プラン」について、見聞きしたことがあるものを、いくつでもお答えください。

1. NHKのニュース・番組 3.6 %
2. 民放のニュース・番組 4.5
3. 新聞 9.7
4. 週刊誌・月刊誌などの雑誌類 0.8
5. NHKのホームページ 0.8
6. NHK以外のホームページ 0.3

- 認知の具体内容[放送サービス](MA) -

SQ4. ここに、「NHK新生プラン」にもりこまれている事柄が並べてあります。この中で、あなたが見聞きしたことのあるものがあれば、いくつでもお答えください。

1. NHKだからできる放送をさらに充実する 12.3 %
2. 視聴者第一主義に立った開かれた番組づくりに取り組む 12.9
3. 放送のデジタル化を進め、視聴者にとって利便性の高い新しい公共放送サービスを開発する 10.9
4. この中にはない 3.7
5. わからない 2.3
6. 無回答 0.0
7. 非該当(新生プランを知らない+無回答) 71.3

- 認知の具体内容[スリム化](MA) -

SQ5. では同様に、この中ではどうでしょうか。いくつでもお答えください。

1. 部や局の統廃合、管理部門の縮小など、組織の改革を推進する 9.7 %
2. NHKの制作者と外部の制作者が番組の企画、制作を競い合う仕組みを本格的に導入するなどにより、組織の活性化を促す 6.8
3. 放送設備の整備計画や、教育テレビ、衛星ハイビジョンの24時間終夜放送などを見直し、経費の削減を図る 8.0
4. 放送の質を確保しながらも、平成18年度から3年間で全職員の10%、1,200人を削減する 10.3
5. 関連団体について、NHKと一体となった諸改革を進め、時代にふさわしい再編成を行う 5.1
6. この中にはない 4.5
7. わからない 4.2
8. 無回答 0.0
9. 非該当(新生プランを知らない+無回答) 71.3

- 認知の具体内容 [受信料の公平負担] (MA) -

SQ6. では、この中ではどうでしょうか。いくつかもお答えください。

- | | |
|--|-------|
| 1. 単身赴任者や学生の料金割引制度など、より公平で合理的な受信料体系を検討する | 5.3 % |
| 2. 口座振替の人、長期間支払っている人に対する優遇施策を実施する | 7.8 |
| 3. 訪問や文書などでの丁寧な説明により、お願いを重ねても受信料を支払わない場合には、民事手続きによる支払い督促の活用などを検討する | 12.3 |
| 4. この中にはない | 7.2 |
| 5. わからない | 3.9 |
| 6. 無回答 | 0.2 |
| 7. 非該当 (新生プランを知らない+無回答) | 71.3 |

- 評価 -

SQ7. あなたは「NHK新生プラン」をどの程度評価しますか。この中から、あなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 大いに評価する | 1.0 % |
| 2. まあ評価する | 12.4 |
| 3. あまり評価しない | 9.4 |
| 4. まったく評価しない | 2.4 |
| 5. わからない | 3.3 |
| 6. 無回答 | 0.2 |
| 7. 非該当 (新生プランを知らない+無回答) | 71.3 |

- 関連行動 (MA) -

SQ8. あなたは「NHK新生プラン」に関連して、次のようなことをしましたか。この中からあてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. NHKに電話・FAX・メールをした | 0.2 % |
| 2. NHKのホームページを見た | 0.5 |
| 3. インターネットに書き込みをした | 0.0 |
| 4. 家族や友人・知人に話をした | 3.5 |
| 5. その他 | 0.0 |
| 6. 特に何もしなかった | 24.2 |
| 7. わからない | 0.5 |
| 8. 無回答 | 0.1 |
| 7. 非該当 (新生プランを知らない+無回答) | 71.3 |

- 力を入れるべきこと [NHKだからできる放送] (MA) -

Q2. ここからは、「NHK新生プラン」に基づいてNHKが実施しようとしていることについて、おたずねします。あなたは、今後さらにNHKがどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。この中からあなたのお考えに近いものをいくつかもお答えください。

- | | |
|--|--------|
| 1. いざというとき頼りになる、迅速で的確な災害報道・緊急報道をすること | 72.0 % |
| 2. 情報がはらんする中で、確かな指針となるニュースや大型企画番組をつくること | 34.7 |
| 3. 子どもたちを健やかにはぐくむ教育番組や、高齢者や障害者のくらしに役立つ福祉番組をつくること | 47.3 |

4. 心に響くドラマ、深く時代を見つめるドキュメンタリーなど、次の時代に引き継ぐ質の高い番組をつくること

38.5

5. 地域に密着し、地域社会の発展に貢献する地域放送と全国発信を行うこと

32.5

6. 世界の放送機関と協力・連携するとともに、日本の最新の動きと文化を世界に発信すること

26.0

7. 国民的財産である貴重な映像記録の蓄積を生かす番組、サービスを提供すること

29.6

8. この中にはない

6.7

9. わからない

5.3

10. 無回答

0.4

- 力を入れるべきこと [視聴者第一主義] (MA) -

Q3. では、同様に、この中ではどうでしょうか。いくつかもお答えください。

1. 視聴者の声を受け止め、それを反映させた番組づくりや番組編成をすること

55.3 %

2. 視聴者が議論に参加し解決策を考えていく番組をつくること

22.8

3. 外部の人材などの新しい発想や多様な視点を取り入れた、開かれた番組づくりをすること

39.9

4. この中にはない

13.6

5. わからない

8.6

6. 無回答

0.6

- 力を入れるべきこと [新しいサービス] (MA) -

Q4. 同様に、この中ではどうでしょうか。いくつかもお答えください。

1. 地上デジタル放送、BSデジタル放送を普及させること

26.7 %

2. 携帯電話でテレビを見たり、デジタル録画機に記録した番組を好きな時間に選んで見るなど、新たなサービスを開発すること

17.7

3. デジタル技術を活用し、誰もが等しく情報を得られる“人にやさしい”放送に取り組むこと

35.3

4. この中にはない

26.7

5. わからない

15.2

6. 無回答

1.2

- 組織改革、スリム化の推進への賛否 -

Q 5 . スリムで活力ある組織をつくるためには、NHKはどのようなことを実施すべきだと思いますか。(1)から(5)のそれぞれについて、あなたのお考えに近いものを1つずつお答えください。

(%)	1. 実施すべきである	2. どちらかといえば	3. どちらかといえば	4. 実施すべきでない	5. わからない	6. 無回答
(1)組織を統廃合したり管理部門を縮小する	44.4	23.5	3.6	3.0	24.1	1.5
(2)NHKと外部プロダクションが番組制作で競い合う仕組みを増やす	28.3	22.4	12.2	8.8	26.6	1.8
(3)教育テレビ、衛星ハイビジョンの放送時間を短縮する	10.2	10.8	21.4	28.9	26.6	2.1
(4)職員の10%(1,200人)を3年間で削減する	39.1	20.6	8.8	6.1	23.8	1.5
(5)NHKの関連団体を再編成する	41.1	18.8	4.6	4.2	29.6	1.8

- 受信料額の見直し(MA) -

Q 6 . NHKの受信料の金額に関する見直し策として、この中で、検討すべきだと思うことがありましたら、いくつもお答えください。

- 1. 一人暮らしの学生の受信料額を割り引く 44.6 %
- 2. 単身赴任者の受信料額を割り引く 29.2
- 3. 白黒テレビの受信料を、カラーテレビと同額にする 11.7
- 4. この中にはない 36.1
- 5. わからない 10.1
- 6. 無回答 1.3

- 優遇制度(MA) -

Q 7 . 受信料を口座振替で支払っている人や、長期間支払っている人に対する優遇施策として、この中で、実施したらよいと思うことがありましたら、いくつもお答えください。

- 1. 公開番組の観覧抽選を優先的に行う 24.2 %
- 2. NHK主催の美術展などのイベントに招待する 25.8
- 3. 番組やイベントの情報を送る 20.4
- 4. 番組関連の放送記念品を提供する 15.5
- 5. その他 5.2
- 6. 優遇施策は必要ない 35.0
- 7. わからない 10.1
- 8. 無回答 1.5

- 支払い督促の賛否 -

Q 8 . NHKは、受信契約をしたにもかかわらず、訪問や文書による説明を重ねてもなお受信料を支払わない人に対し、受信料を公平に負担してもらうための最後の手段として、民事手続きによる支払い督促の活用を検討する、としています。支払い督促とは、申し立てに基づいて簡易裁判所が金銭の支払いを命じる文書を送付する略式の手続きで、督促を受けた人は異議を申し立てることができます。また、支払い督促の申し立てに直接かかる費用は、試算で1,600円程度です。この支払い督促の活用について、あなたのお考えに近いものを、この中から1つだけお答えください。

- 1. 実施すべきである 22.2 %
- 2. どちらかといえば、実施すべきである 19.1
- 3. どちらかといえば、実施すべきでない 18.4
- 4. 実施すべきでない 25.4
- 5. わからない 13.8
- 6. 無回答 1.1

- 支払い督促賛成の理由(MA) -

【Q 8 で「1. 実施すべきである」「2. どちらかといえば実施すべきである」と答えた人に】

S Q 1 . それはどのような理由からですか。この中から、あなたのお考えに近いものをいくつもお答えください。

- 1. 受信料の支払いは、法律などで決まっていることだから 18.4 %
- 2. 不公平をなくすには、説得だけでは限界があるから 29.7
- 3. 督促の費用を差し引いても、受信料収入が増えると思うから 4.8
- 4. これまでにNHKは、自らの力で受信料を集める努力を十分行ったから 3.0
- 5. これまでにNHKは、信頼回復の努力を十分行ったから 2.0
- 6. 払っていない人への効果が確実にあると思うから 10.4
- 7. その他 0.6
- 8. わからない 0.4
- 9. 無回答 0.0
- 10. 非該当(支払い督促を実施すべきでない+どちらかといえば実施すべきでない+わからない+無回答) 58.6

- 支払い督促反対の理由(MA) -

【Q 8 で「3. どちらかといえば、実施すべきでない」「4. 実施すべきでない」と答えた人に】

S Q 2 . それはどのような理由からですか。この中から、あなたのお考えに近いものをいくつもお答えください。

- 1. 公共放送にふさわしい方法ではないから 12.8 %
- 2. 払わない人への法的措置の費用に受信料を使うのは、本来の使い方ではないから 12.8
- 3. まず受信料の契約をしていない人に対して、法的措置をとるべきだから 4.8
- 4. NHKは、自らの力で受信料を集める努力を十分行ったとは思えないから 11.6

- 5. NHKは、信頼回復の努力を十分行ったとは思えないから 20.2
- 6. 払っていない人への効果があるとは思えないから 14.9
- 7. その他 3.1
- 8. わからない 0.8
- 9. 無回答 0.2
- 10. 非該当（支払い督促を実施すべき+どちらかといえば実施すべき+わからない+無回答） 56.2

- NHKテレビの接触頻度 -

Q9. 話は変わりますが、あなたは、今、NHKのテレビをどのくらいご覧になっていますか。このように分けると、どれに最も近いですか。総合テレビ、教育テレビ、衛星放送を合わせてお答えください。

- 1. ほとんど毎日 60.2 %
- 2. 週に2、3回くらい 14.9
- 3. 週に1回くらい 8.8
- 4. 月に1、2回くらい 4.4
- 5. 年に1、2回くらい 2.4
- 6. まったく見ていない 8.1
- 7. わからない 0.8
- 8. 無回答 0.3

- 民放テレビの接触頻度 -

Q10. では、民放のテレビについてはいかがですか。衛星放送やCS放送も合わせてお答えください。

- 1. ほとんど毎日 88.0 %
- 2. 週に2、3回くらい 6.7
- 3. 週に1回くらい 1.6
- 4. 月に1、2回くらい 1.1
- 5. 年に1、2回くらい 0.1
- 6. まったく見ていない 2.1
- 7. わからない 0.2
- 8. 無回答 0.2

- 放送局へのアクセス経験（MA） -

Q11. あなたは、放送局に対して、次のようなことをしたことがありますか。この中からあてはまるものをいくつかもお答えください。

- 1. 公開番組の観覧を応募する 8.8 %
- 2. 放送番組の出演を応募する 2.0
- 3. 番組で募集しているお便りや質問の手紙・FAX・メールを送る 3.8
- 4. 番組で募集しているビデオやテープ、写真を投稿する 1.1
- 5. 意見、要望などの手紙・FAX・メールを送る 2.0
- 6. 意見、要望などの電話をする 2.7
- 7. その他 1.0
- 8. したことはない 82.4
- 9. わからない 1.4
- 10. 無回答 0.2

- 契約しているもの（MA） -

Q12. この中で、現在お宅で料金を支払っているものがあればすべてあげてください。

- 1. NHK受信料 81.3 %
- 2. WOWOW視聴料 6.1
- 3. スカイパーフェクトV！視聴料 5.5
- 4. 専門チャンネルが見られるケーブルテレビの視聴料 14.2
- 5. この中にはない 12.2
- 6. わからない 1.8
- 7. 無回答 0.8

サンプル構成

全体	性		年 層					
	男	女	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,313人	600	713	147	223	221	265	253	204
100.0%	45.7	54.3	11.2	17.0	16.8	20.2	19.3	15.5

男の年層						女の年層					
20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
70	95	90	102	130	113	77	128	131	163	123	91
5.3	7.2	6.9	7.8	9.9	8.6	5.9	9.7	10.0	12.4	9.4	6.9